

■平成30年度第9回（第293回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成31年3月1日（金）午後3時00分～午後3時30分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、松本副市長、水道事業管理者、教育長、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、都市局長

【議 題】 大宮図書館の既存建物の活用について

< 提 案 説 明 >

大宮図書館の既存建物の活用について、都市局から次のような説明があった。

- ・ 大宮駅東口における「公共施設再編による連鎖型まちづくり」は、「総合振興計画」や「都市計画マスタープラン」を上位計画とする「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」に位置づけられており、優先的に取組むべきプロジェクトのひとつである。
- ・ 本案件は、「大宮駅東口 公共施設再編 全体方針」の中に位置づけている氷川神社周辺エリアに位置しており、現大宮図書館の機能は、大宮区役所新庁舎に移転することが決定しており、現大宮図書館の利用が課題となっている。
- ・ 全体方針では概ね10年のアクションプランを示しており、この中で、将来的に現大宮図書館と市立博物館の一体的活用を視野に入れ、検討することとしている。
- ・ 現大宮図書館は本年5月に移転が予定されている一方で、市立博物館の今後のあり方について検討が始まったところである。
- ・ そのため、平成32年に開催が予定されている「さいたま国際芸術祭」の終了後から、市立博物館の今後のあり方が整理されるまでの一定の期間、現大宮図書館を民間事業者へ貸し出すことで活用していきたい。
- ・ これまでの検討では、移転後の現大宮図書館について、「施設を閉鎖」または「売却」あるいは「解体」など、様々な可能性について比較し、検証を行ってきた中で、民間事業者へ現施設を貸し出すことで活用することの優位性を確認してきた。
- ・ また、民間事業者へのサウンディング結果においても、多くの事業者が「現大宮図書館を民営で再利用する可能性」の事業性を認めている。
- ・ 昨年11月に実施した市民アンケートにおいても、現大宮図書館の将来を考えるオープン会議に参加した市民約100名のうち、78%の方々が「既存の建物を貸し出すことが良い」と回答している。
- ・ こうしたことから、現大宮図書館施設を一定期間、民間事業者等に貸し出すことで活用したいと考える。

< 意見等 >

- ・ 民間事業者の選定については、公平・透明なプロセスで行って欲しい。
- ・ 今回の案件をリーディングプロジェクトとして、公民連携の取組を進めて欲しい。
- ・ 他の周辺エリアと整合性を図るように進めて欲しい。

< 結果 >

- ・ 大宮図書館の既存建物の活用について原案のとおり了承とする。

< 会議資料 >

(資料1) 大宮図書館の既存建物の活用について